

第5学年 国語科 学習構想案

日時 令和5年10月27日(金) 第2校時

場所 5・6年教室

指導者 教諭 小関 留美

I 単元構想

単元名	事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう 「想像力のスイッチを入れよう」 (光村図書P187～P198)		
単元の目標	(1) 文の中での語句の係わり方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の特徴について理解することができる。(知(1)力) (2) 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思C(1)ア) (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思C(1)オ) (4) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思C(1)カ) (5) 筆者の論の展開のしかたや、表現のしかたに着目して筆者の考えを捉え、言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おう(学びに向かう力、人間性等)		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①文の中での語句の係わり方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の特徴について理解している。(知・技(1)力)	①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(思C(1)ア) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(思C(1)オ) ③「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(思C(1)カ)	①筆者の文章を読んで自分の意見をまとめることに粘り強く取り組み、単元の学習課題に沿って互いの意見を交流しようとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
ニュースを伝えるマスメディアで情報を受け取ったとき、事実と憶測(感想や意見)に着目し、事実からどんなことが想像されるのか考えながら、これからのメディアとの関わりについて自分の経験と結びつけて考えようとしている児童。			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
筆者の主張の要旨を捉え、自分の知識や経験と関係付けて、今後のメディアとの関わり方を発信しよう(プレゼンテーション資料作成時の参考資料の厳選につなげよう)。		事例と筆者の意見との関係に着目し、筆者がなぜ「想像力のスイッチ」という表現をしたのか考えたり、メディアとの関わりについて自分の考えを文章に書いたりを通して、言葉への自覚を高めること。	
指導計画と評価計画(7時間取扱い、本時4/7)			
次時間	4C	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
第一次 2		①単元扉を読み、題名などからどのような文章かを想像するとともに、「もっと読もう」の範読を聞き、現在の自分とメディアの関わりについて考える。 ②「想像力のスイッチを入れよう」を読み、形式段落や説明の型(尾括型)を捉え、初発の感想から学習計画を立てる。	★【態①】(発言・ノート) ○先行読書している本や「もっと読もう」を読んで、自分とメディアの関係について考え、自分の意見を、単元の学習課題に沿って、友達と交流しようとしている。 ★【知①】(発言・記述・授業支援ソフト) ○形式段落や説明文の型などの文章の構成や特徴を理解している。
第二次 3		③「メディア」について、筆者が説明している部分を見付け、文章を大きなまとまりに分け、それぞれ書かれている内容をまとめる。	【思①】(発言・シート) ○事実と感想、意見などとの関係を押さえ、論の展開のしかたや表現の工夫のしかたを捉えて、筆者の主張を読み取っている。

	<p>④なぜ「想像力のスイッチを入れよう」という題名にしたのか筆者の思いを考える。(本時)</p> <p>⑤メディアとの関わりを自分の経験を交えながら、自分の考えをまとめる。</p>	<p>★【思①】(発言・シート) ○事実と意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、要旨を把握している。</p> <p>★【思②】(発言・ノート) ○文章を読んで、特徴や共通点を整理して共有し、自分の考えをまとめている。</p>
第三次 2	<p>⑥まとめた内容を基に、グループで共感したことや疑問に思ったことを話し合い、感想を交流する。</p> <p>⑦先行・並行読書から新たに気付いたことについて、自分の考えを伝えて交流する。</p>	<p>★【思③】(発言・シート) ○文章を読んでまとめた自分の感想を共有し、自分の考えを広げている。</p> <p>★【態①】(観察・発言・シート) ○交流して考えが広がったところなどの観点で、単元全体を振り返ろうとしている。 ※発展的な内容のため評価なし</p>

2 単元における系統及び児童の実態

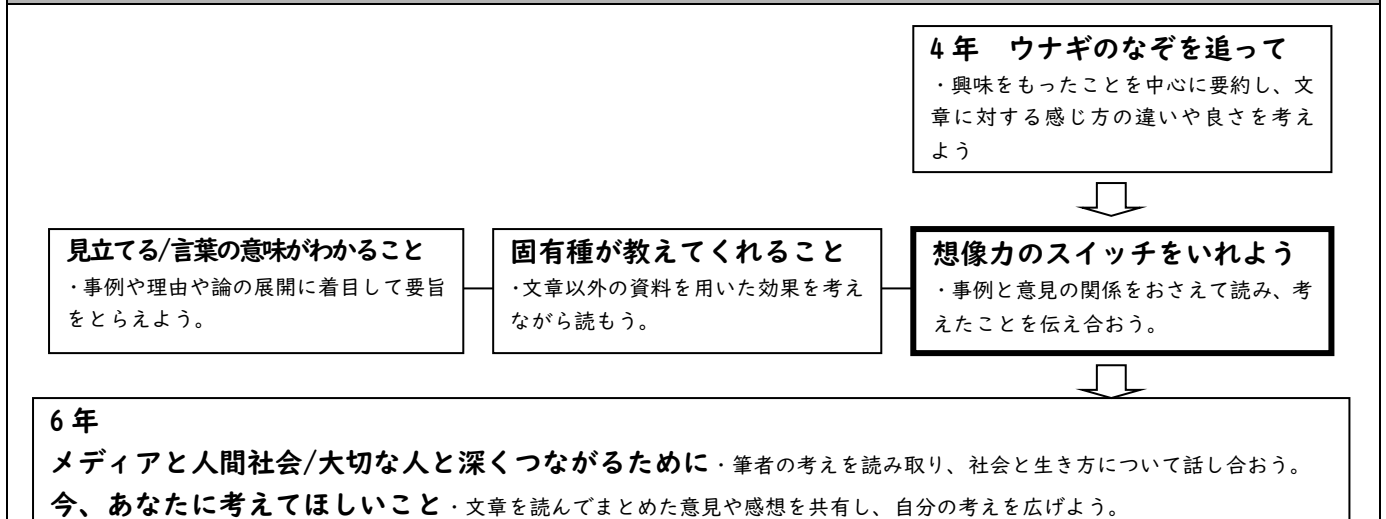
学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)

小学校学習指導要領5学年及び6学年
 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項(学習指導要領P17~P22)
 [思考力、判断力、表現力等] C読むこと (学習指導要領P146~P152)

教材・題材等の価値

「想像力のスイッチを入れよう」は、メディアから発信される情報を正確に受け止めるために必要な努力について、事例を挙げながら考えを述べた説明的な文章である。筆者は、ニュースキャスターなどを務めたジャーナリストであり、伝えることのプロフェッショナルである。分かりやすい事例を挙げ、比喩を用いながら自分の考えを展開しており、そこには、読者に伝えるための工夫が散りばめられている。①仮定したり、投げかけたりする表現 ②身近な事例に共感させ筆者の考えに導く ③具体的な事例を基に最後に考えを述べている ④比喩が多く、読者に考えさせようとしているという4つの特徴が児童の要旨の理解を促す教材だと言える。

本単元における系統



児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)5年生10名

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況	
調査内容(物語教材に関する実態)(R4 NRTの結果より)	正答率
説明文 内容をまとめる	40%
説明文 詳細読み取り	40%
説明文 筆者の主張を読み取る	60%
調査内容(野のがらり教材に関する実態)(R4 熊本県学力学習状況調査より)	正答率
文と文との接続の関係を理解し、文章の内容を捉えている。	90%
叙述を基に段落相互の関係を捉えている。	80%
情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約している。	90%

■国語の学習に関する意識の状況（9月下旬実施）

調査内容（ ）は6月実施のアンケート結果	できる	ややできる	あまりできない	できない
①国語の授業では、「なぜ」という問いを持って取り組むことができますか。	8 (6)	1 (4)	1 (0)	0 (0)
②国語の授業では、「なるほど」という深い学びができていますか。	8 (7)	2 (3)	0 (0)	0 (0)
③国語の授業では、まとめや振り返りができていますか。	9 (6)	1 (3)	0 (1)	0 (0)
④国語の授業では、4Cを意識して取り組むことができますか。	6 (5)	4 (5)	0 (0)	0 (0)
⑤国語の授業では、3人組（ペア）での学び合いができていますか。	9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
⑥国語の授業で、学習リーダーはできていますか。	5 (4)	3 (6)	2 (0)	0 (0)
⑦国語の授業では、タブレットを使って学びを深めることができますか。	5 (7)	5 (2)	0 (0)	0 (1)
⑧国語の授業で学んだことや「もっとやってみよう」と思ったことをきょうらっ子ノートに生かすことができますか。	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
⑨国語の授業と関連する本の読書ができていますか。	3 (3)	4 (4)	3 (3)	0 (0)
⑩目標冊数に向けて読書ができていますか。	5 (8)	3 (2)	2 (0)	0 (0)

■本単元の学習に関する意識の状況

①世の中の新しい出来事をどのようにメディアから取り入れていますか。割合で書いてください。また、具体的に内容を教えてください。（数値は平均値）									
新聞	12%	ラジオ	1%	テレビ	60%	インターネット	21%	その他	6%
理由	新聞・・・学校においてある新聞を読む。祖父母の家で読む。新聞を取っていない。 ラジオ・・・車の中で流れているのを聞く。ラジオがない（多数）。 テレビ・・・家族と一緒に朝と夕方のニュースを見る。 インターネット・・・ヤフー、ラインニュース、ティックトックやユーチューブで流れてきた時に見る。 その他・・・ケーブルテレビで町の事を知る。家族の話から知る。								
②説明文に書かれている筆者の思いや考えを読むのは好きですか。					はい	9	いいえ	1	
理由	はい・・・筆者の思いや考えを知ることができる。新しい考えに出会える。 筆者の考えと自分の考えを比べることができる。 いいえ・・・筆者の思いや考えを見付けるのが苦手。								
③筆者の意見と事例の関係について考えながら読んでいますか					はい	5	いいえ	5	
理由	はい・・・意識して読むと内容が分かりやすい。どんなことからこう思うのか考えられる。 特に理由はない。 いいえ・・・意識したことがない。大切なことだとは思っていなかった。								
④説明文を読んで、自分の感想や考えを持っていますか。					はい	10	いいえ	0	
理由	はい・・・説明文は物語文より感想を持ちやすい。納得したり、批判したりすることがある。 初めて知ることが多い。								
⑤自分と友達の感想や意見の違いを明らかにしたり、互いのよさを認め合ったりしていますか。					はい	8	いいえ	2	
理由	はい・・・自分の意見と相手の意見を話し合っ、共感したり、疑問を持ったりしている。 いいえ・・・相手の良さを見付けることができない。								

（資質・能力に関して）

学力検査（NRT）の結果を見ると、「内容をまとめる」「詳細読み取り」においては全国平均を下回り、「主張の読み取り」においては少し上回る程度であった。上記の実態調査からも分かるように「筆者の意見と事例の関係について考えながら読んでいる」児童が半数しかいないことに原因があると考えられる。熊本県学力・学習状況調査においては、本単元に関する内容は高い正答率である。

（国語の学習に関する意識に関して）

アンケート結果をみると、きょうらっ子学習過程に沿い、①自分で問いを持ち課題に対して積極的に取り組んでいることが分かる。意識調査の数値を見ると、③まとめや振り返りができ、⑤3人組での学習の深まりを感じている児童が多い。読書全般においては、興味関心が高い。しかし、依然⑨の授業で学んだことに興味をもって読書活動につながっている児童は少ない。

(本単元の学習に関する意識に関して)

世の中の新しい情報を概ね「テレビ」から得ていることが分かった。インターネットは、自分が興味のあるサイトから受動的に入ってきている。新聞は、学校掲示のものから得ていることがほとんどで、家庭の講読は3世帯である。メディアではなく、家族との会話から知る児童もおり、コミュニケーションの中で得ていることが分かった。

説明的な文章を学習するにあたって、筆者の意見と事例を意識して読む児童は半数であることが分かり、指導する際には、主張や考えと事例は何か考えながら読む練習を重ねていく必要がある。

3 本校の研究テーマと仮説及び指導に当たっての留意点

「わくわく」が連続し、「なぜ」「なるほど」「もっとやってみよう」が生まれる授業
～国語科において、〈りん小版4C〉を育成する「きよらっこ学習」過程の工夫～

【仮説1】

4Cを意識した単元及び1単位時間のデザインを行うとともに、導入から終末を貫く「きよらっこ学習」を工夫すれば、「わくわく」が連続し、「なぜ」「なるほど」「もっとやってみよう」が生まれる授業となるであろう。

仮説1について

○4Cを意識した単元及び1単位時間のデザイン

- ・単元全体の流れが分かるよう、学習計画表及び振り返り表を作成する。この学習計画は、単元の初めに「単元ゴールの姿」や「単元を通した学習課題」を基に児童自ら立てさせる。その際、導入と終末の学習内容は提示しておく。
- ・事例と意見の関係をおさえ、自分の知識や経験と結びつけて読むことができるように、3つの事例(①読者が情報の発信者の場合のマラソンの例 ②図形の例 ③報道の例)と似ている自分の経験を考える。この経験を授業支援ソフトを活用して書くように家庭学習で取り組む。
- ・学習計画を立てた後、その1単位時間の学習活動を達成するには、4Cのどの力を用いて解決することができるのか考え、自分たちで設定した4Cに対して、振り返りをする。

○導入から終末を貫く「きよらっこ学習」の工夫

- ・単元の導入において、「これからのメディアの関わり方について」という自分の考えをまとめることを知ることで、目的意識を持てるようにする。また、自分の意見や根拠を示しながらプレゼンテーション資料を作成する際、信用度の高いメディアからの情報を資料として用いていく意識を高める。

○児童が主体的に進めるガイド学習の徹底と工夫

- ・3人組の役割(司会者・記録者・発表者)をローテーションで行った上で、きよらっこ学習過程に沿って、学習リーダーを中心とし、学習課題に対してのまとめを自分たちでできるようにする。学習課題のまとめは、自分で考えたものから出てきた意見や感想(共感や疑問)から言葉を紡いでいく。

【仮説2】

学んだことを生かした家庭学習や読書活動の工夫をするとともに、学びと連動した言語環境を整えていけば、「わくわく」が連続する授業が、日常的に繋がっていくであろう。

仮説2について

○学んだことを生かす家庭学習の工夫

- ・3つの事例(①読者が情報の発信者の場合のマラソンの例 ②図形の例 ③報道の例)と似ている自分の経験を書くように家庭学習で取り組む。

○学んだことを生かす読書活動の工夫

- ・並行(先行)読書の充実のため、「メディアに関する本コーナー」を設置する。授業や家庭学習で読んだ本については、筆者の考えと自分の考えを区別して書き、授業支援ソフトを用いてみんなで共有する。

○学びの足跡が分かる教室掲示

- ・並行(先行)読書の際、筆者の考えと自分の考えを区別して書き、授業支援ソフトで作成したものを印刷して本の近くに掲示する。

○人権が尊重される授業づくりの視点から

- ①自己存在感・・・各自の読み取り方を肯定的に受け入れることを大切にする。
- ②共感的な人間関係・・・グループで考えを伝え合ったり、整理したりする場の設定を行う。
- ③自己選択・決定・・・本単元の学びを生かして、家庭学習で「やってみよう」という思いを持たせるようにする。

【板書計画】

事例と意見の感想をおさえて読み、考えたことを伝え合おう
 「想像力のスイッチを入れよう」 下村 健一さん

きめあて
 「想像力のスイッチを入れよう」という題名にしたのか、筆者の思いを考えよう。

よろうか。
 『想像力のスイッチ』を入れる』ために四つのスイッチは必要だろうか。

ら
 ④ ③ ② ①
 『まだ分からないよね。』必要？
 『事実かな、印象かな。』必要？
 『他の見方もないかな。』必要？
 『何がかくれているかな。』必要？

こまどめ
 四つのスイッチは必要である。なぜなら、情報の書かれ方は一つではないからだ。筆者は、「想像力のスイッチを入れよう」という題名にすることで、目にして情報以外の情報について考えたり、情報に入っている印象に注意したり、行動のうらにある事情を考えたり、見えている情報は一部ではないことを知っておいたりすることを意識して行うことの大切さを伝えているから。

学習課題に対するふりかえり
 六年生の板書

【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

- 電子黒板やタブレットを適宜使用し、児童の学習の深まりに役立てるとともに、作業時間の短縮を図る。
- 自分の考えやグループの考えを授業支援ソフトにまとめ、電子黒板に示すことで、友達の考えを自分の考えと比較し、考えを広げ、深める手助けとなるようにする。学習リーダーが共有された考えをもとにまとめていくことにも活用する。
- 家庭学習において、メディアに関する読書をした後には、授業支援ソフトに「読んだ本の事実と自分の感想と意見」を区別して書き提出し、全員でその情報を共有する。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

例：単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

- ・全国学力・学習状況調査や熊本県学力・学習状況調査の過去問の中から、関連する問題を解く。
 (説明的文章及び資料活用の問題)
- ① 説明的文章を読み取り、情報を活用することについての定着の状況の確認
 【全国学力・学習状況調査】 令和4年度国語2 銀色の幻想
 【熊本県学力・学習状況調査】 令和4年度国語5 「なぜ?どうして?科学のお話5年生」
- ② 本単元で働かせた見方・考え方
 説明文を読むとき、事例と筆者の意見との関係に着目し、筆者の主張を捉えるためにどのような表現を用いているのか、主張に対して共感したり、疑問に思ったりしたことを自分の考えとして文章にまとめることを通して、言葉への自覚を高める。このことを生かして、言葉への関心を高めたり、友達と伝え合うことで考えを深めたりしたことを今後の学習につないでいく。